

博多とアジアの映画(99)

松浦 仁

ジャッキー・チェンは、80年代に入る
と念願だったハリウッド進出を果たし、
「バトルクリーク・ブロー」(1980)
と「キャノンボール」(1981)の2作
品に出演した。しかし、主演した「バト
ルクリーク・ブロー」は全米週末興行
収入第1位(1980年8月29日〜9
月1日)は獲得したものの、ジャッキー・
チェンはロバート・クローズ監督(燃
えよドラゴン)を監督)の方針に納得で
きなかった。また、出演した「キャノン
ボール」はロジャー・ムーア、フアラフ
オーセツト、バート・レイノルズ、ディ
ーン・マーティン、サミー・デイヴィス・ジ
ュニア、ピーター・フォンダといった
早々たる俳優が出演してアメリカでは
大ヒットしたのだが、香港ではあまり
話題になることはなかった。ジャッキ
ー・チェンは、ハリウッドに進出したも
のハリウッドスターとして輝けなかつ
たことに不満を抱いていた。

1982(昭和57)年、ジャッキー・チ
ェンがかつての名声を取り戻すために
香港で映画を製作することにした。そ
れが「龍少爺 Dragon Lord」(邦題は
「ドラゴンロード」1982)だった。
ジャッキー・チェンは監督・主演、脚本
にも加わり、レイモンド・チョウの製作
総指揮で嘉禾電影有限公司(Golden
Harvest)、羅維影業有限公司(Lo Wei

Motion Picture)、嘉峰電影有限公司
(Paragon Films)の3社が共同出資し
て製作した。ジャッキー・チェンのホー
ムグラウンドである香港で、自身の巻
き返しを図ろうとする意気込みがうか
がえるキャストینگとスタッフだった。
た。

『辛亥革命直後の香港郊外のある村、
名士の御曹司ロン(ジャッキー・チェ
ン)は羽根蹴り競技のチームヘッドラゴン
キッカーに所属して武道やスポーツ
に明け暮れていた。ロンは、日頃から思
いを寄せていた女性に尻を使って恋文
を渡そうとするが、盗賊団のアジトで
ある屋敷に落ちてしまい、慌てて尻を
拾いに屋根にのぼると潜伏していた男
たちと鉢合わせする…。』
「ドラゴンロード」は、悪役と格闘して勝利する、こ
れまでのカンフー映画から抜け出し、
中国の伝統文化や近代スポーツを融合
した架空の競技を見せ場にラプストリ
ーを盛り込んだ青春活劇だった。

「ドラゴンロード」は1982(昭和
57)年1月に香港で公開され、日本で
は東宝東和が輸入・配給して4月10日
から東京で公開された。福岡では少し
遅れて4月24日から6月11日までシネ
マ1で上映された。「ザ・カンニング
IQ=0」との2本立てだった。

0年に製作されたフランス映画だった。
バカロレア(高等学校教育の終了を認
証する大学入学資格試験)の予備校生
たちがカンニングを駆使して合格を目
指す、フランスの受験制度を皮肉った
捧腹絶倒のコメディ映画だった。日本
ではフランスでの公開から2年後の1
982(昭和57)年4月に公開された。
シネマ1で上映された「ドラゴンロー
ド」と「ザ・カンニング IQ=0」はど
ちらも博多(日本)初公開だった。さら
に、「ドラゴンロード」と「ザ・カンニ
ング IQ=0」は、香椎セントラルで年
末の12月18日から12月24日まで「ヤン
グマスター 師弟出馬」を加えた3本立
てで上映された。また、「ドラゴンロー
ド」は東映パラスで11月6日から11月
24(日)まで、西新アカデミーで12月17日
まで、「ミラクルワールド フッシュマ
ン」どの2本立てで再映された。
「ミラクルワールド フッシュマ
ン」は1980(昭和55)年に南アフリ
カ共和国で製作されたカラハリ砂漠に
住む友好的な部族、ブッシュマンを扱
ったコメディ映画だった。現在は、「コイ
サンマン」に改題されている。コーラの
空きビンに悪魔の道具だと思ひ込み、
世界の果てまで捨てて行くブッシュマ
ンの代表者の頓珍漢な道中を砂漠地帯
の僻地に赴任してきた女教師と「気の弱

い微生物学者の恋模様を絡めて描いている。1982(昭和57)年に日本でも公開され、主演したサン族のニカウが翌年に来日し人気者になった。日本での配給収入は23億7千万円で1982(昭和57)年の年間1位だった。

1982(昭和57)年までに福岡市で公開されたジャッキー・チェン主演(出演も含む)映画は、「少林寺木人拳」(1976)「ドラクモモンキー 酔拳」(1978、以下「酔拳」)「拳精」(1978)「スネーキーマンキー 蛇拳」(1978、以下「蛇拳」)「クレージーモンキー 笑拳」(1979、以下「笑拳」)「龍拳」(1979)「バトルクreek・プロ」(1980、以下「バトルクreek」)「ヤングマスター 師弟出馬」(1980、以下「ヤングマスター」)「ドラゴンロード」(1982)の9本で、出演したのは「キヤノンボール」(1981)の1本だった。

では、1982(昭和57)年にジャッキー・チェン主演・出演映画が福岡市の映画館でどれほど上映されたのだろうか。天神映画(2月18日〜24日)「バトルクreek」(「コンコルド」と2本立て)福岡東映(2月27日〜3月12日)「龍拳」(「忍者武芸帖百地三太夫」と2本立て)香椎セントラル(4月5日から4月

15日)「龍拳」「酔拳」(「忍者武芸帖百地

三太夫」と3本立て)シネマ1(4月24日〜6月11日)「ドラゴンロード」(「ザ・カンニング IQ110」と2本立て)

ステーションシネマ(4月30日〜4月15日)「龍拳」箱崎東映(5月1日〜5月7日)「酔拳」「拳精」「笑拳」筑紫東映(5月15日〜6月4日)「龍拳」「酔拳」(「忍者武芸帖百地三太夫」と3本立て)

福岡グランド(5月29日〜6月18日)「龍拳」「キヤノンボール」筑紫東映(6月5日〜6月25日)「笑拳」(「水のないプール」「爆裂都市」と3本立て)

東映グランド(6月26日〜7月9日)「バトルクreek」「ドラゴンロード」箱崎東映(8月3日〜8月13日)「蛇拳」「龍拳」(「死亡の塔」と3本立て)

東映グランド(9月14日〜8月24日)「拳精」「ヤングマスター」東映パラス(11月6日〜11月24日)「ド

ラゴンロード」(「ミラクル・ワールド ブッシュマン」と2本立て)

ド ブッシュマン」と2本立て)香椎セントラル(12月18日〜12月24日)「ヤングマスター 師弟出馬」ドラゴンロード」(「ミラクル・ワールド ブッシュマン」と2本立て)

ジャッキー・チェンの映画は、よほど人気で観覧収入が見込まれたのだろう。1982(昭和57)年は、福岡市内の延べ15館で上映された。

ジャッキー・チェンのカンフー・アクション映画が日本で初公開した1979(昭和54)年から1981(昭和56)年までにジャッキー・チェン主演映画は以下の映画館で上映された。

1979(昭和54)年 2館(福岡東映、東映パラス)1980(昭和55)年 7館(福岡東映(3回)、駅前東映、福岡東宝、東映パラス、ステーションシネマ)1981(昭和56)年 15館(福岡東映(2回)、福岡東宝、ステーションシネマ(2回)、富士映劇、天神中央映劇(2回)、西新アカデミー、筑紫東映(2回)、箱崎東映(2回)、香椎セントラル(2回)1982(昭和57)は前年と同じ15館で上映され、ジャッキー・チェンの人気は衰えることはなかった。



西新アカデミー(12月11日〜12月17日)「ドラゴンロード」(「ミラクル・ワールド

次号に続く
 ≪ 図版は「ドラゴンボール」 ≫